

事務事業名	歴史研究所調査研究事業			会計	一般会計	実施区分	継続	
H29作成課等名	歴史研究所	H29係等名	総務係	事業種別	政策	開始	15 終了	
基本計画上の位置づけ	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり					
	施策	61	地域資源の発見・資産化					
目的	対象(誰・何を)	・資史料(文書、画像史料、歴史的建造物・景観等) ・歴史研究に携わる人又は興味のある人			対象指標	指標名及び単位		28年度数値
	意図(どういう状態にするか)	・建造物等を含む資史料の調査研究、聞き取り調査等により地域の歴史文化を解明 ・多面的研究により、生きた歴史情報を蓄積				資史料存在可能箇所数(世帯37,858+自治振興センター等15+市内小中校・郡内高校36+企業団体等10+個人蔵10)	37929	
	向上させたい上位施策の成果指標	見いだされた地域資源の数(累計)				おおむね75歳以上市民(聞き取り調査対象年齢)	17466	
目標	種別	指標名及び単位		27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度実績	備考(指標変更など)
	成果指標	研究所で発表した研究成果の数(単年度)		60	66	60	52	
	成果指標	研究活動助成数(単年度)		3	2	3	3	
定性目標								
事業概要	1 時間の経過とともに失われていく史料調査、建造物調査、聞き取り調査(オーラルヒストリー)の実施							
	2 資料の収集、保存、公開、活用							
	3 市内各地に豊かに積層する歴史や文化の達成物全てを「地域歴史遺産」、「地域文化遺産」として再発見し、関係機関との連携を図り、地域市民とともにそれらの調査・研究を将来に継承							
	4 研究員、調査研究員、顧問研究員、市民研究員等は研究計画書に基づきそれぞれの研究課題に取り組み、客員研究員には研究活動への積極的な協力を求め、その成果を、研究集会、定例研究会、年報等で公表							
	5 市域を対象にした研究活動を支援・助成することで研究成果の蓄積を図り、人材の育成に努め、広くその成果を地域に還元							
28年度事業内容	事業内容				名称		活動指標	
	1 共同研究				1 調査回数		1 62回	
	2 基礎研究				2 研究件数		2 20件	
	3 地域史研究集会 8月27日～28日				3 参加者数		3 201人	
	4 研究成果物等の出版『年報14』(研究報告、市民の研究投稿等)				4 出版数		4 1件	
	5 地域史研究の振興と支援、歴史研究活動の支援と助成				5 対象数		5 3件	
	6 定例研究会				6 定例研究会等回数		6 6回	
	7 歴史史料の調査研究と保存・利活用(文化遺産を活かした地域活性化事業)				7 保存・利活用の史料数		7 約26,456点	
	8 地域歴史史料調査と地域史研究団体への支援				8 調査・支援回数		8 47回	
事業コスト		27年度決算額	28年度予算額	28年度決算額	29年度繰越額	特定財源内訳、補足		
事業費計(千円)①		15,762	17,933	16,206	0	(国)文化芸術振興費補助金(10/10) (そ)諸収入		
国庫支出金		3,295	4,460	4,272				
県支出金								
起債								
その他		283	350	218				
一般財源		12,184	13,123	11,716				
人件費計(千円)②		14,304	0	12,928	0			
正規職員所要時間		4,000		3,450				
臨時職員所要時間				550				
総事業費①+②		30,066	17,933	29,134	0			
事業内容・目標達成状況の振り返り		・資史料の調査研究・保存・公開を行うとともに、その成果を各講座等で報告した。 ・旧役場文書などを調査・整理し、地域の貴重な財産として保存・継承していく観点から、平成28年度は、松下家、佐藤家、代田家文書の他、旧役場文書である千代(2,957点)、鼎(547点)、川路(約12,000点)、上郷(6点)の目録を作成し保存。						
改革改善の考え方	①問題点	市民等からの依頼・相談により調査・整理を必要とする資史料が年々増加しているが、整理に時間を要し、また経費等の問題から調査や整理が進まず、公開に至らない資史料が多い。						
	②改革提案	・H17年度分の飯田市の非現用文書は文書箱が積み重ねられた状況、歴史研究所で保管している非現用文書も閲覧経費・人材を確保し、資史料の調査と整理を進める。地域にある資史料は、地域の人々と協働で調査等を行い、地元で保存する体制を推進する。調査の目的と研究の継続性を重視して、研究事業の枠組みを見直す。						